

# 平成28年度学校経営方針

中野区立第二中学校  
校長 池田 浩二

## 1 教育目標

- (1) 学習に励む (確かな学力の定着)
- (2) 自己をみつめる (自分の課題に向き合う)
- (3) 相互に高めあう (世のため、人のために生きる)
- (4) 体力をつける (心身の健やかな成長)

## 2 経営方針

- (1) 全教職員が自分の持つ知識、能力、経験のすべてを駆使し、生徒に充実した活動の場と豊かな学びの場を提供する。
- (2) 長年にわたって築き上げられてきた第二中学校の伝統を受け継ぎ、生徒の実態に即した改善を加えることで更に発展させ、特色ある学校の創造を目指す。
- (3) 特別支援学級設置校としての特性を生かし、本校に関わる全生徒が、互いの良さを認め合える教育活動の場を創造する。
- (4) 教師が授業力、指導力を身につけることのできる環境や雰囲気醸成に努め、教師一人一人の資質を向上させる。
- (5) 主幹教諭・主任教諭・教諭がそれぞれの職の自覚を持ち、学校を組織としてより良く機能させ、組織対応が可能な学校作りを目指す。
- (6) 教員一人一人が、「地域の学校の一員」とであるという自覚を持ち、地域との連携に努めることにより、区民・都民の信託に応える学校をつくる。
- (7) 関連小学校との連携を図り、学習・生活両面において継続性のある小中連携一貫教育の推進に努める。

## 3 めざす学校像

- (1) 生徒の諸活動を大切にし、生徒が母校として誇れる特色ある学校
- (2) 学力の向上に努め、基礎学力を養う学校
- (3) 学校に関わる生徒・保護者・教職員が、自ら学び合い高め合う学校
- (4) 互いの良さを認め合う心情や態度を養う学校
- (5) 集団行動を通して、集団のルール・マナーを身につける学校
- (6) 地域との連携を深め、地域から信頼され愛される学校

## 4 重点目標

- (1) 生徒が活動する場の充実
- (2) 小中連携教育の推進
- (3) 学力向上の推進
- (4) 校内研修の推進
- (5) 互いの良さを認め合う心情や態度の養成
- (6) 発信と連携に努めた学校づくりの推進
- (7) 防災教育の推進

## 5 具体的施策

### (1) 生徒が活動する場の充実

#### ①学校行事

- ア 生徒の主体的な活動を大切に、生徒が集団の中で連帯感を深めその自発性を伸ばすために、教師一人一人が指導力の向上に励み、常に側面から指導する姿勢を継続する。
- イ 学校行事の充実を図り、生徒が母校として誇れる特色ある学校作りを目指す。
- ウ 学校行事の見直しを行い、より充実した活動が可能となるような改善を図る。

#### ②部活動

- ア 部活動は学校の管理下で計画し実施する教育活動であり、健全育成の観点からも、生徒に部活動への参加を奨励する。
- イ 全教員が部活動の顧問を担当し指導に当たる。必要に応じて外部指導者や保護者の協力を得て、活動の機会をより多く設定する。

#### ③生徒会活動・委員会活動の充実

- ア 月1回の生徒会朝礼を設定し、リーダーとなる生徒が全体の場で活動する機会を設け、自主自立の力を育成する。
- イ 生徒会担当、委員会担当が中心となって計画的な活動に心掛け、生徒に自主的な活動を学ぶ機会を提供する。
- ウ 生徒の現状に合わせた委員会活動の見直しを行い、より充実した活動の場の設定を図る。

#### ④ボランティア活動

- ア 学校内外でのボランティア活動を体験することを推奨し、思いやりの心、公德心、ボランティア精神を養う。
- イ 学校・地域が連携してボランティア活動を推奨していくために、地域のボランティアに関する情報を集約し、学校全体として参加を促す働きかけを行う。
- ウ オリンピック・パラリンピック教育や道徳授業などとも関連付け、ボランティア精神の醸成に努める。

#### ⑤生徒指導の充実

- ア 長年培われてきた全教員での指導体制を継続し、規律ある学校生活を生み出して、生徒一人一人に安心して安全な生活環境を提供する。
- イ 生活の記録（デイリーライフ、スマイルライフ、あゆみなど）を活用し、生徒とのコミュニケーションに努め、きめ細やかな指導を行う。
- ウ 学校生活を通して集団のしつけを行い、集団のルール・マナーを身につけさせる。
- エ インターネットや携帯電話等の利用に関するルールやモラルの指導を喫緊の課題としてとらえ実施するとともに、保護者に対しての啓発活動も進

めていく。

オ 新旧の全教職員が、指導の方向性を同じくして学年等の壁を超えた指導に当たる。

カ いじめ防止対策推進法を受けた校内体制の確立に努め、生徒や保護者にもその意味を周知した指導を行う。

## (2) 小中連携教育の推進

①オープンキャンパスや乗り入れ授業を通じて小中連携を推進し、本校の教育活動をPRするとともに、中一ギャップの解消に努める。

②小中連携協議会を通じて、小学校の教職員との交流を図るとともに、小学生の実態把握に努める。

③学校行事等の実施においても、小中連携教育の意図を十分に理解し、生徒が活動を通じて連携が可能となる場面を設定していく。

④学校説明会などの機会を通して、小学校生徒および保護者の啓発に努める。

⑤二中校区の三小学校（中野本郷、桃園、向台）と連携し、家庭での学習習慣の定着を図る。

## (3) 学力向上の推進

①全教員が授業規律確立のための共同実践に取り組み、より良い学習環境を生み出すとともに、生徒一人一人に学ぶ姿勢の定着を図る。

②基礎・基本の定着、家庭学習習慣の定着を学力向上のための重点項目として、全教員が具体的な授業改善プランを作成し、年間を通じて取り組む。

③生徒、保護者対象の「学習ガイダンス」を実施し、生徒に学習の仕方を身につけさせるとともに、家庭の協力を受け家庭学習習慣の定着を目指す。

④少人数指導検討委員会を中心に、本校生徒の実態を分析し、英語での少人数授業や、それ以外の教科でも必要に応じて少人数授業を行い、個に応じた指導法の工夫改善を行い、学習意欲を高める授業の実践に努める。

⑤学習指導支援員などを活用した放課後学習教室を開催し、学習習慣の定着を目指す。

⑥計算・漢字・スペリングコンテストなどを実施することにより、やればできるという達成感を味わわせ、学習意欲を高める。

## (4) 校内研修の推進

①校内研修等の機会を活用した公開授業を行い、互いの授業の「わかる授業の工夫」「考えさせる授業の工夫」を学びあう。

②授業相互見学期間を設け、教員が相互の授業参観を行い、互いに学び研修する機会とする。

③I組が開催する特別支援に関する研修会を校内研修の一環として位置づけ、特別支援教育に関する理解を深める。

④主幹教諭・主任教諭を中心に校内OJT体制を組織し、新規採用教員、若手教員に対する指導助言を行う。

(5) 互いの良さを認め合う態度の育成

- ①日常の活動や授業に、特別支援学級Ⅰ組の生徒と一般生徒が共に協力しあえる形態を取り入れ、互いの理解や連帯感を深める。
- ②人権教育プログラムに基づき、道徳の時間をはじめ他の教育活動や学校行事を通して、差別や偏見をなくす教育を推進する。また、副籍交流の機会を生かして、「共生社会」実現のための意識を高める。
- ③人権感覚を大切にされた教育活動を推進し、生徒の活動を細かく見守ることで、いじめのない集団作りを進めると共に、スクールカウンセラー・心の教室相談員との連携により、生徒にいじめを容認しない心情を育成する。
- ④スクールカウンセラーによる全員面接を実施し、生徒とスクールカウンセラーとのつながりを作り、相談しやすい環境を整える。

(6) 発信と連携に努めた学校づくりの推進

- ①学校だより、学年通信、学級通信などの発行、ホームページの更新、学校情報配信システム（E学校ネット）の活用に努め、より多くの情報を地域に発信する。
- ②定期的に学校公開を行い、保護者や地域の方からの授業評価を実施し、その内容を学校経営、授業改善に反映させる。
- ③保護者会の機会を利用し、各教科、学年の教育活動内容を具体的に発信する。また、「学習ガイダンス」を実施し、本校教育活動に対する理解を深める。
- ④道徳授業公開講座やセーフティ教室を開催し、学校での教育活動を理解していただくとともに、地域の協力で作り上げる教育活動の範囲を拡げていく。
- ⑤道徳授業のゲストティーチャーとして地域で活動する保護司の方々を招くなど、地域人材の発掘と活用に努める。
- ⑥二中ゆうねっとの運営に協力し、二中ゆうねっとの幅広い活動により生徒の活動の場の充実を図る。
- ⑦祭礼パトロールや地域行事に参加し、「地域の学校の一員」としての役割を果たすとともに、地域との交流に努める。

(7) 防災教育の推進

- ①年間22回の避難訓練及び安全指導を行い、安心安全な学校の構築に努める。
- ②避難訓練の中に生徒が主体的に取り組む部分を取り入れ、自らの安全について考え、自らの力で安全を確保していける能力を身に付ける機会を提供する。
- ③中野区総合防災訓練、避難所開設訓練などへの参加を推奨し、「自助・公助・共助」の意識の育成に努める。

(8) その他

- ①教職員一人一人が全体の奉仕者としての立場を自覚し、その職責を遂行し、区民・都民の信託に応える。
- ②サービスの厳正に努め、わいせつ、セクシュアル・ハラスメント、体罰、個人情報紛失・流失、交通事故・交通違反、不適切な指導・言動、会計事故などのサービス事故を起こさない意識と学校組織の改善を行う。